



## 令和3年度を振り返って

花北地区「コミュニティ協議会」事務局長 盛岡耕市

令和3年度も、新型コロナウィルスに明け、12月に回復の兆しが見えたかと思ったのも束の間、オミクロン株の出現で、また新型コロナウイルスに暮れることとなりました。

平成27年度に当協議会の事務局長に就いてから6年となります。毎年様々な事業を通じて、花北地区の皆さんのが集う姿を見出し、事務局長としていろいろ見聞きしながら協議会の事業が地域に果たす役割について考えてきました。

当コミュニティ協議会の事業は、「花北地区コミュニティ計画」に定められた6つの体系の町づくりを実現する、ということを踏まえて行われています。

特に、協議会事業の中で、市か

らの交付金を財源として実施している「地域づくり交付金事業」については、前述のコミュニティ計画を踏まえた各自治会（町内会）の皆さんからの事業提案と、協議会内に設置している5つの専門部会の皆さんからの事業提案をもとに事業を行っています。

事業実施にあたって、各自治会（町内会）の皆さん及び各専門部会の皆さんのご協力に常日頃から感謝しております。

実施される事業内容は、ゴミ積み所の更新など地域の皆さんの生活環境の改善につながる事業や、街路灯の整備など地域の安全安心につながる事業等のハード事業と、各種スポーツ大会、文化祭等地区の皆さんのが交流したり、集う場所

の段階ではソフト事業の比率が約40%だったものが、決算見込みでは、約20%にそれぞれ縮小せざるを得ない状況です。

ト事業に分かれます。これらのハード事業とソフト事業は「車の両輪」のごとくバランス良く実施することが、より良い地域づくりに資するものとも考えています。

来る令和4年度は、コロナウィルス流行が完全に終息して、地区的皆さんが集うソフト事業が計画通り実施できる日が1日も早く来ることを、そしてソフト事業とハード事業がバランスよく実施でき、より良いまちづくりのための事業ができるようになることを、心から祈っています。

## 今年度の教育文化部事業について

教育文化部 部長 松田廣邦

世界的なコロナパンデミックは新たなオミクロン株となりその猛威を振るっています。

今年度も花北地区文化祭は開催できませんでしたが、感染者数の減少の中で二つの事業を実施することが出来ました。一つは従来から親しまれてきた盆栽教室であり、もう一つは第7回花北地区文化講話会でした。

盆栽教室については、コロナ感染拡大状況の様子を見ながら当初予定の開催時期を変更して実施し

ました。従来の取り組み（同趣同好の方々の作品持ち寄りと親睦）に加え、初心者へのアプローチの必要性を提起し、受講生全員に盆栽の台木を無料提供すること及び用土・肥料・道具の準備を行う等、誰でもが気軽に受講できる環境づくりを行いました。将来展望としてコロナ収束後の文化祭開催時に初心者用作品展示コーナーを設け、ベテランの作品と共に鑑賞戴くことを構想しております。今回の受講には一般会員の外に教育文化部



員も対象として取り組みました。今回準備した台木は「さつき」で近隣にお住いの方から格安にご提供戴きました。植替えの時期がずれてしまい台木の成長にあつた取り扱いとならなかつたことは反省点です。10月期には、前回配布した台木を持参して戴きましたが、生憎の夏場の暑さで、水やり、置き場等で初心者は少々苦戦を強いられたようです。「枯らしてしまった」という声が2~3ありました。まあ!これも経験のうちでしよう。

講師からは、盆栽に向かう心構え、水やりの大切さや愛情の掛け方等について説明を戴きました。冬を越した皆さんの台木がどうなつているのか春が楽しみです。

12月の第7回花北地区文化講話

会には、奥州市水沢・黒石寺の前住職藤波洋香氏をお招きいたしました。「コロナに負けず 人生楽しく」の演題でユーモアを交えたながら約1時間の講話を戴きました。

楽しく生きるために、  
①身体的に健康であること（健体康心）

②二病息災（二つくらい病気を持つっている方が自分の体に気をつける）

③いつも好奇心を持つている  
④出来るだけ孤立しない（孤独と

立は違う）

⑤出来るだけプラス思考で物事を捉える

「人生に相変わらず」は無い（この世は常に変化している）だから

今日一日を大事に生きることが大

切なのです。明日があるということは実は当たり前のことではない（何時どうなるのか先のことは分からない）どう楽しく生きられるかという事は、その人の心の中にあります。

講話後に皆さんのが感想をお聞きしたところ「大変良いお話を聞か

地区的先人

## 私財を擲つて花巻の発展に尽力した伊藤儀兵衛

四日町一丁目二区自治会 鈴木 守

私たちの自治会には「四日町」という町名が入っていて、この地域に住めることを私は誇りに思っています。それは、花巻の「四日町」の先人に伊藤儀兵衛という人がいたからだ。

ある時、「花北地区コミュニティ消防センター」へ行つた際、その入口に「花巻城下町発祥の地」と刻された石標があつた。そのことを知つて往時に思いを巡らしながら周辺を見回してみたならば、写真のようならついに石碑があり、それは「明治天皇御聖蹟」だと分かつた。そしてここはかつて伊藤儀兵衛の宅地があつた場所だということも知つた。

せて戴いた」「機会があつたらまた聞きたい」「以前にも聞かせて戴きましたが改めて感銘を受けました」等の声が聞かれました。コロナ禍でなければもっと多くの方々にお聞きかせしたいお話をでした。

明治23年、東北本線が開通され、花巻駅が開業した。それまで舟運によつてのみ輸送されていた物資が、簡便に遠方に送られることとなり、また、全国へつながる大動脈として東西から花巻に連絡する路線が敷かれるようになつて、花巻商人の活動する舞台が繰り広げられたのである。しかし、喜ぶべきこの鉄道も、はじめはそんなに人気のあるものではなかつた。地主たちは鉄道をおそれて、だれも駅の敷地

を提供するものがなかつたといふ。その時、進んで現在の駅の敷地を無償で提供したのが豪農 笹屋こと伊藤儀兵衛であつた。ところが、笹屋は二度の大火に遭い、また経済事情の変遷もあつて打撃を受け、往年の繁栄は夢物語となつたが、伊藤の花巻に尽くした功績は、忘れるものでないものがある。



## 地区だより

浅沢町内会 会長 草木 幸子

私が町内会長をお引き受けして、もうじき一年になります。会長と

なる以前から民生委員のお役を頂いておりました。民生委員として地域の方々と顔を合わせ、お話をしている中で、防災に対する危機意識が会長の役も引き受けるきっかけとなりました。

大雨特別警報が発令された時の事です。避難の連絡が町内会から入りましたので見守り訪問をして

いる方に連絡をとりました。しかし現状を知る事で精一杯。電話

は、いざ・まさかの時こそつながらない事もあることを知りました。

支援を求めて手を挙げている方々はそれぞれ一人での避難は難しく、

町内の高齢化が進む中で、町内会、近隣住民の方々の協力無しでは支

援を要する方々の避難誘導は難しいと痛感いたしました。支援をする方がどういう状況にあるのか

を知つていないと、地域のつながりが希薄になりつつある現状では、

実際有事に直面した際に適切な行動がとれないと思い、役員会の中で声を出して問題を共有したい、そう思つた次第です。

この一年を振り返りますとコロナ禍の為、防災訓練はできず残念でしたが、互いに誰がどういう動

きと任務にあたるのかが想定できるようになりました。班の中には避難行動時、応援を必要とされている方がおられる事も、幹事さんにお伝えしました。浅沢自主防

災の仕組みが町民全體に浸透し、防災への関心が高まるよう皆で働き続けていきたいと考えます。

地域をみると行事はコロナ禍で自粛を強いられ世代をこえた行事が無くなつた事で元気をなくしていると感じます。同じ地域に住む者同士、暖かい声を掛け合い励まし合える手だけではないものだろうかと常々思つていたのですが、そんな願いが小さな形で実現しました。「サロンお茶の間」の立ち上げです。町内に同じ思いを抱いている方がおられ、気負わず一人でも公民館に来て下さる方がいるのであればとの思いで昨年夏より、たくさん協力のもと毎月開催であります。



令和3年度の防災訓練説明会

## 区長の一人言

四日町三丁目 区長 鎌田 慎一

報告もできる交流の場、お茶の間がどんな風に育つてゆくのか期待が大きくなるばかりです。

四日町に生を受け今年で73才になります。生まれ育つたこの地区に何かしら役に立ちたいと思い8年前に今は亡き小原敏夫さんから引き継ぎました。区長の役目は住民と市のパイプ役と広報の配布です。月2回の広報はアパートの階段の昇降が体に効くようになりました。区長になつてどんな人達が町内に暮らしているのか分かろうとした。区長になつてどんな人達が「三丁目を良くする会」と称して酒飲み会を企画し毎回35~40人の賛同を頂き親睦を図つてきましたが、現在はコロナの関係で途切れています。

又、8年前は桜台小学校から不審者メールが再三入つたものでした。自分の孫も2年生だったのですが、現在はコロナの関係で途切れています。

「新亀屋」「まっちゃん」と7人の協力を頂き「三丁目見守り隊」を結成し不審者と交通灾害から守っています。という建前ですが本音



#### 活動中の見守り隊

は男達の井戸端会議です。どこぞ  
の親父さんが具合悪いようだと  
か、あそこの夫婦あんまり仲が良  
くない様だなどコーヒーを飲みな  
がら話をしていると子供達が帰つ  
てきます。挨拶も出来る様になりました。学期毎に我々も反省会  
(飲み会)を行い来学期に備えます。今年孫が入学します。見守り  
隊はあと6年頑張るつもりです。79才か、持つかな?何をするにも  
最初は張り切つて事に対処するの

で続くのですが、継続させて行く事は本当に大変です。次の世代の人達に理解をして頂き続けて頂きたいものだと思っております。

桜台子供会冬の  
ノリ

桜台教育部  
留場春奈

コロナウイルス・オミクロン株の話題が尽きない現在ですが、昨年12月19日コロナが少し落ち着いた時期でもあり桜台子供会の冬のレクリエーションを行ないました。

桜台自治会の高橋修さんの本の実細工のお話を聞き、是非にと思いました。

コロナの影響もあり参加者はあるのだろうか不安がありましたが

コロナの影響もあり参加者はあるのだろうか不安がありましたがコロナ禍であっても人と繋がりを大切にしたいと行われた夏のクリエーションの効果もあり、70人近い参加者となりました。密を避け当日は、午前と午後の2回に分け検温・消毒・換気を徹底しま

いよいよ工作が始まると、子供

たちは松ぼっくりやドングリを前に何を作ろうかと真剣な表情で考えていましたが、少しすると目をキラキラさせてボンドでくっつけたりペンで描いたりとアイディアが次々と浮かんでいるようで楽しんでいました。

そんな子供たちを嬉しそうに見ていた保護者達も気が付けば真剣に工作していたのには驚きました。友達がどんなものを作っているのか気になつて見に行つたり、思うように作れず苦戦していたり、友達同士でアドバイスをしあつたりと微笑ましい光景でした。

出来上がった作品は、みな様々で子供たちの想像力には本当に関心させられました。

その後は、お待ちかねのbingo大会。bingoになつた順にいろいろあるプレゼントの中から、それぞれ選んでいくのですが、大きさや重さで選んだり中身をどうにか探そうとしたり、見ている私達も楽しい時間となりました。

え一番に思う事は、保護者間の繫がり、子供たちとのふれあいは気持ちを豊かにするのだと改めて実感したことです。

まだまだコロナが落ち着かず学校も臨時休校を余儀なくされました。そのような中であつても子供たちの健やかな成長のために、繫がりを大事にする活動を、これらも自治会の皆様のお力をお借りしながら提案していけたらと思いります。

◆編集後記

このコロナ禍で、従前の活動が  
しにくい状況下、皆さん工夫を凝  
らして活動なさっていることがお  
わかりいただけると思います。ど  
うぞご覧下さい。そして、寄稿し  
て下さった方々に御礼を申し上げ  
ます。



## 子供たちの活動の様子